

●『北海道新幹線シンポジウム in おしゃまんべ』開催！

3年後の平成27年度末には新函館（仮称）開業を控え、北海道新幹線の開業効果を全道へ波及・拡大させるための取り組みを考える「北海道新幹線シンポジウム in おしゃまんべ」（主催・北海道）が2月16日、長万部町学習文化センター文化ホールで開催されました。

約200人が参加し、「北海道新幹線と道南地域開発について」をテーマにした基調講演に続き、長万部町内と胆振で活躍されている方々4氏に講演者の高津氏がコメンテーターとして加わり、5人を交えたパネル討論会が行われました。交通結節点であり、檜山北部・後志南部・胆振方面などの広域玄関駅としての性格を持ち、交流人口の増大が想定される新幹線長万部駅を、そのまちづくりや周辺地域との観光を中心とした広域連携に活かすためにはどう取り組むのか？

待ちに待った新幹線時代の到来に向け、『新幹線を地域でどう活かすか』などについて多くの提案が示されました。



【基調講演】『北海道新幹線と道南地域開発について』高津 俊司 氏（室蘭市出身）

日本コンサルタンツ株式会社取締役副社長・技術本部長（鉄道建設・運輸施設整備支援機構元理事）

講演では、北海道新幹線長万部駅を中心に、噴火湾沿岸地域が観光や食文化などで連携する「噴火湾広域経済・文化圏」の構築を提案し、在来線（リゾート列車、鉄道利用の広域観光ルート）や道路交通（高速道路との結節）、海上交通（噴火湾観光船など）の必要性を強調。その上で、広域経済圏をブランド化するために、噴火湾を「北海道のナポリ湾」とネーミングしてみてもどうかとのアイデアも披露しました。

★パネルディスカッション（討論会）：

地域テーマ：『沿線地域『道南』の暮らし、産業、観光の未来（あした）を探る！』



【パネルディスカッションコーディネーター】

石井 吉春 氏

北海道大学公共政策大学院 教授
北海道運輸交通審議会 会長



村松 和弘 氏（むらまつ かずひろ）
長万部商工会会長
北海道新幹線建設促進長万部町期成会会長
●若者の発想と知恵で、長万部からも情報発信を積極的に行うべき。SNS（※1）などのツールを活用し、「長万部に来るとおもしろい」と思わせたいと力説した。
●長万部町を目的地とした、中高年層の温泉街滞在利用を促したい。キーワードは「健康」。料理メニューなどにも健康を意識した工夫をしてみてもなどと提案。

野沢 肇 氏（のざわ はじめ）
東京理科大学 長万部校舎 准教授
●将来、人口が減るのは確実だが、人口が減っても楽しいまちにしたいといけなく、学生には「毛がにまつり」が人気であり、このようなイベントは継続するべきだ。
●理科大では、「長万部地域社会研究部門」を立ち上げ、町のために役立つ活動を行い始めた。
●学生の社会教育を深めるため、町内でのボランティア活動の単位化も検討している。

角 健氏（すみ つよし）
長万部観光協会会長
●近隣8町村（長万部・八雲・今金・せたな・黒松内・蘭越・島牧・寿都）の観光スポットを点ではなく線で結び、観光客のニーズに合った観光ルートの確立をしていきたい。

唐神 昌子 氏（からかみ しょうこ）
トーホーリゾート株式会社代表取締役社長
（社）別荘観光協会会長
●新函館（仮称）駅で降りた観光客を登別や道内の観光地へ呼び込むためにも、広域連携や二次交通の整備が重要。
●家庭内での旅行先の決定権は、女性が主導権を握っている。女性に愛される（清潔な設備、スイーツなどおいしい食べ物など）観光地になる努力をしていくべき。
●東アジアの旅行会社も新幹線開業に注目しているので、アピールしていかなければならない。

■新幹線に関するお問い合わせやアイデア・ご意見はこちらへ《まちづくり新幹線課》

◆メールアドレス：m.s-k@town.oshamambe.lg.jp ☎2-2450 FAX 2-4884

※町HPでの北海道新幹線の情報はこちらでご覧いただけます。http://www.town.oshamambe.lg.jp/modules/politics/category0005.html

